



(結論)

- 2回の組成分析調査結果では潜在率のばらつきが大きくなっており、結果として燃やしているプラスチックの潜在量が約1000トンと大幅に変化しており予測する為の方法としては信頼性が低い。
- 組成分析調査結果の潜在率より可燃、不燃に含まれる潜在量を計算し、平成22年度～26年度の仮の実績数を算出し、その算出された数値を元に平成31年度以降の移行量を予測していると思われるが、元になる潜在率のばらつきが大きければ、平成31年度以降の移行量も変わって来る。
- 更に複数回の組成分析調査を実施すれば、潜在率の変化は増減する可能性が高い。小平市が燃やしているプラスチックを何トン移行できるかを予測する手段とするには無理が有ると考えられますので、他の手段を検討した方が良いでしょう。
- 燃やしているプラスチックの移行量が計画より増加すると、可燃物、不燃物の処理量も変化することになりますので精度の高い予測方法を確立する必要があります。

可燃物の成分分析結果(平成25年5月実施。約1842Kgを調査)

分類	品目	平成25年 加重平均	平成27年 加重平均
可燃性資源	新聞紙・折込広告	0.6	0.3
	雑誌・書籍	1.0	0.8
	段ボール	0.3	0.2
	雑紙	6.9	6.1
	シュレツダー紙	0	0
	古布・ふとん	2.1	1.0
不燃性資源	ぬいぐるみ等	0	0
	ガラスびん	0	0
	缶類	0	0.1
	ペットボトル	0	0.2
	硬質プラ(資源)	0.9	1.5
	その他の発泡トレイ	0	0
	キャップ類	0	0
	スプレー缶、ガスカートリッジライター	0	0
	金属製のナベ・ヤカン・フライパン	0	0
	有限性資源	蛍光管	0
	乾電池	0	0
	水銀体温計(血圧計)温度計	0	0
その他資源	紙パック	0.5	0.5
	紙パック(アルミ付き)	0	0
	剪定枝	0.2	0
	白色トレイ	0	0
可燃物	生ごみ(厨芥類)	42.6	51.9
	生ごみ(未利用品)	5.4	3.5
	その他紙類	7.9	9.1
	剪定枝以外の草・木類	10.1	3.4
	レジ袋(未使用)	0.1	0.2
	軟質プラ	4.2	6.8
	その他可燃物	14.5	11.4
不燃物	チューブ	0	0.1
	発泡スチロール	0	0
	製品プラ(プラのみ)	0.4	0.5
	製品プラ(複合物)	0	0.1
	ゴム・皮革類	0.2	0.6
	その他金属	0	0
	小型家電製品	0	0
	陶磁器	0	0
	その他不燃物	0	0.1
	収集不適物	収集不適物	0.9
外袋・内袋	レジ袋(内袋)	0.3	0.5
	プラスチック袋	0.3	0.3
	レジ袋	0.3	0.3
合計		99.7	99.5

不燃物の成分分析結果(平成27年6月実施。約1206Kgを調査)

分類	品目	平成25年 加重平均	平成27年 加重平均
可燃性資源	新聞紙・折込広告	0	0.1
	雑誌・書籍	0.1	0
	段ボール	0	0
	雑紙	0.2	0.2
	シュレツダー紙	0	0
	古布・ふとん	0.2	0.6
不燃性資源	ぬいぐるみ等	0	0
	ガラスびん	4.8	2.1
	缶類	1.9	1.4
	ペットボトル	0.6	0.8
	硬質プラ(資源)	16.6	13.8
	その他の発泡トレイ	0.3	0.3
	キャップ類	0.4	0.4
	スプレー缶、ガスカートリッジライター	0.8	0.2
	金属製のナベ・ヤカン・フライパン	0.3	1.3
	有限性資源	蛍光管	0.1
	乾電池	0.1	0.1
	水銀体温計(血圧計)温度計	0	0
その他資源	紙パック	0.1	0
	紙パック(アルミ付き)	0.1	0
	剪定枝	0.1	0
	白色トレイ	0.3	0.2
可燃物	生ごみ(厨芥類)	0.4	0.7
	生ごみ(未利用品)	1.0	0.5
	その他紙類	0.8	0.6
	剪定枝以外の草・木類	0.6	0.5
	レジ袋(未使用)	0.3	0.3
	軟質プラ	6.3	5.9
	その他可燃物	1.3	1.8
不燃物	チューブ	2.3	1.3
	発泡スチロール	0	1.4
	製品プラ(プラのみ)	18.7	24.1
	製品プラ(複合物)	0	4.0
	ゴム・皮革類	7.3	13.0
	その他金属	7.0	5.9
	小型家電製品	14	5.4
	陶磁器	7.5	4.3
	その他不燃物	4.0	7.1
	収集不適物	収集不適物	0.2
外袋・内袋	レジ袋(内袋)	0.6	0.5
	プラスチック袋	0.4	0.6
	レジ袋	0.7	0.5
合計		100.4	99.9

※平成24年度の数値は小平市の一般廃棄物処理基本計画に記載の数値を引用。

※平成27年度の数値は平成28年7月9日協議会資料(小平市ごみ組成分析調査書(抜粋))の数値を引用。

※合計が100%となっていない理由は資料の数値を引用した結果です。

(潜在量の計算結果)

1回目の潜在率。ごみ量予測(最終版)の数値訂正後を引用。

可燃ごみ全体の0.9%が硬質プラスチック等、4.3%が軟質プラスチック等
 不燃ごみ全体の19.6%が硬質プラスチック等、6.6%が軟質プラスチック等
 と想定し、その50%を移行量として設定しています。

平成24年度人口=185,279人。可燃物=.33,699t。不燃物=5,489t

1回目(平成25年実施)の成分分析結果での潜在量

可燃物	軟質プラ	1449	硬質プラ	303	軟質プラ合計	1811	単位:トン 合計
不燃物	軟質プラ	362	硬質プラ	1076	硬質プラ合計	1379	

2回目(平成27年実施)の潜在率

可燃ごみ全体の1.6%が硬質プラスチック等、7.0%が軟質プラスチック等
 不燃ごみ全体の17.2%が硬質プラスチック等、6.2%が軟質プラスチック等

平成27年度の成分分析結果での潜在量

可燃物	軟質プラ	2359	硬質プラ	539	軟質プラ合計	2699	単位:トン 合計
不燃物	軟質プラ	340	硬質プラ	944	硬質プラ合計	1483	

	可燃物、硬質プラ潜在率	可燃物、軟質プラ潜在率
平成25年度	0.9	4.3
平成27年度	1.6	7.0
25年度比	0.7	2.3

	不燃物、硬質プラ潜在率	不燃物、軟質プラ潜在率
	19.6	6.6
	17.2	6.2
	-2.4	-0.4

(考察)

※平成25年度比で、可燃物に含まれる容器プラの潜在率は3.0%の増加となっている。

※平成25年度比で、不燃物に含まれる容器プラの潜在率は2.8%の減少となっている。

→3.0%の増加と2.8%の減少でトータル0.2%の増加と僅かだが、潜在量を計算すると993トンと約31%増加となる。

- ・2回の組成分析結果でこれだけ差が出ると、小平市の燃やしているプラの資源化移行量予測は信頼性に疑問に思う。
- ・潜在量が変化した場合、小平市が燃やしているプラの移行量はどのように計算するのか教えてください。

→品目別には潜在率にバラつきが見られるがこの様な調査なので当然の結果だと思う。

- ・プロジェクター資料(廃棄物処理実態調査結果平成24年度版)では、組成分析の精度について「布類や剪定枝な数値が変わってきてしまいます」と説明されているが、布類+剪定枝(12.2%)に対して7.8%と4.4%と減少しているが逆に生ごみ関係は7.4%増加しており、ほぼ、相殺されているのでこれもバラつきの範囲と考えられる。

※衛生組合では定期的に組成分析調査を実施しているが、潜在率のバラつきが出ている事は把握できていると思います。

バラつきが大きい組成分析調査の資料を使って、小平市が燃やしている容器プラの資源化への移行量の算出方法として決めたことに無理があったと考えられます。

→衛生組合HPのデータ集→ごみ成分分析結果で年度別に可燃物、不燃物と確認できます。